東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

加賀美雅弘先生のご退職に向けて（加賀美雅弘先生を送る）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-04-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中村,康子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00173795

加賀美雅弘先生のご退職に向けて

中村　康子*

2022年3月31日に加賀美先生が定年を迎え，退職されることとなりました．1986年4月1日に着任されて以来，36年の長きにわたって東京学芸大学人文科学講座地理学分野で教育研究等に携わり，私たちを盛り立てくださったことに感謝申し上げます．

加賀美先生は，自らの研究成果を絶えず世に送り出してきました．そのご功績の真価は実際に授業を受けたり指導を受けたりした卒業生にしかわからないことです．以下では，私にとって印象深かった著書3つを取り上げ，感じたままを書かせていただきます．

私が赴任した1997年，加賀美先生は大学院時代の留学先であるドイツ・ハイデルベルク大学で客員研究員として研究に専念されていました．最初にいただいた①『「ハプスブルク帝国」を旅する』（1997年，講談社現代新書）は，ハンガリー盆地を中心とする地域の地理と景観がリアルに浮かんでくる記述で，加賀美先生に巡検案内をしていただいた気分になりました．この前後の著書をふまえると，この本には加賀美先生が調査のために訪れた地や，それまでの研究で加賀美先生が得た知見，そこに到達されるまでに培われた教養，そして，後の研究（本③）につながるエピソードも含まれていることがわかります．そして，地理学者にとって「旅」と「調査研究」が表裏一体であること，「観光」ではなく「旅」こそが地理学の研究にも地理の教養にも重要なことを気付かせてくれました．

②『病気の地域差を読む―地理学からのアプローチ―』（2004年，古今書院）は，加賀美先生の若き日を含む過去20年にわたる成果をまとめた研究書で，医学地理学から社会地理学へ，そして中央・東ヨーロッパの地域研究へと加賀美先生が一流の研究者へと歩まれるまでの思考の変化を知ることができます．③『「ジプシー」と呼ばれた人々』（2005年，学文社）は，EU統合・拡大の中で，多様性や地域格差という言葉だけでは収まりきらない民族問題の存在や，さまざまな取り組みの意味と難しさを教えてくれるものでした．これは加賀美先生が常に外向きの態度で研究に臨み，国際的な研究者ネットワークを構築できたからこその成果です．

加賀美先生が分野主任の時，時期外れでも“新年会”をドイツ料理の店で開いてくださったり，スタッフの間での「談話会」の開催を発案されたりするなど，雑務で疲弊しそうな私たちをリフレッシュできる場を作ってくださいました．この2年間，コロナ禍のたいへんな時期に学系長を務められ，毎日のように，そして朝から夕方まで，研究室で多くの会議をこなされていました．こうした仕事ぶりが加賀美先生の人望の厚さにつながり，多くの人を惹きつけるのだと思います．

加賀美先生の今後のご健勝・ご活躍を祈り，ご退職祝いのことばととさせていただきます．

* 東京学芸大学地理学分野（主任）